

河川の連携・地域をつなぐ明日への水 思川開発

思川だより



南摩ダム予定地 (右後方は男体山)

発行所

独立行政法人水資源機構
思川開発建設所
☎028-622-8941

発行人兼編集人
柴田 安宏

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

思川開発建設所

所長 森田 義則



新年あけましておめでとうございませう。皆様方には日頃より思川開発事業の推進につきましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、南摩ダム関係者の皆様方とは生活再建に向けた補償契約を鋭意進めるとともに、西沢集団移転地(光ヶ丘団地)、上南摩集団移転地(思川団地)への移転及び個人移転の方々の移転も着実に進めることができました。また、ダムサイト直下流の室瀬地区につきましましては、一昨年8月に一部の方を除き、ダム容認への方針転換をご英断いただきました。今後とも、室瀬協議会の皆様方と話し合いをさせていただきたくは勿論のこと、事業に対してご理解が得られていない方に対してもご理解とご協力が得られるよう、努めて参ります。



一方、導水路、取水・放流工の建設事業につきましましては、先ず、取水・導水地区の

南摩ダム補償交渉委員会 委員長 駒場 久遠



謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、私たちにとっては、水資源開発公団も国の行政改革により、独立行政法人水資源機構と名称も変わり、不安もありましたが、栃木県水資源対策室、鹿沼市水資源対策室、水資源機構により、二つ集団移転地の造成整備も完了し、集団、個人の移転も急速に進みました。

120有余年、梶又小学校は、教育に限らず、地域文化のシンボルとしての役目も終わりました。2004年3月27日閉校。静かにその日を待つ。水没移転者は、先祖より継承し、住み慣れたふるさとに万感の思いを断ち、新天地を起点に生活が定着するのは、何時になるか。心は水没予定地、ふるさとに。

荒涼と変化した中にまだすみ家と空き家が点在し、複雑な思いです。しかし、現実をしっかりと見極めて、生活再建を子々孫々まで後顧の憂いなく繁栄するか否かが、一人一人の考え

と努力により決まる大切な時です。

経済、社会情勢、厳しい時ですが、思川南摩ダム事業の一環として、下流利水者と水源地在交流の場を、各関係者協力により作り、水(思川事業)の大切さを理解し合う学びの場こそ、あるべきではないでしょうか。

ダム事業も一日も早く、県、市、水機構の協力によって、水特事業も上下流の利害の調整、利水、治水問題も解決をすることと共に、生活再建と地域整備振興が一日も早く達成されることを心から願っております。

栃木県企画部水資源対策室 室長 河野 廣寛



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年は、上南摩・西沢集団移転代替地の造成工事が完了し、ダム建設に伴い移転を余儀なくされた方々の住宅建設も進むとともに、個人移転される大半の方も契約を完了するなど、生活再建に向けての道筋も、概ね見えてきたと感じております。

このような状況を踏まえ、本年は、移転対象者の生活再建はもとより、ダム建設に伴う影響を緩和するための地域整備につきましまして、地元鹿沼市及び水資源機構と連携を取りながら一層の努力をさせていただきます。

事業の最新情報を皆様にお伝えします

おもいがわトピックス

思川開発事業 平成十六年度事業予算内示について

思川開発事業の平成16年度予算額が、平成15年12月22日に主務省(国土交通省)から内示がありましたので、その概要をお知らせします。

平成16年度の思川開発事業は、南摩ダムの水没地権者の生活再建を完了させるべく、栃木県及び鹿沼市等の関係行政機関と十分に連携を図りながら、室瀬地区(ダム直下流)、上南摩地区(代替地・付替県道・整備事業)、取水・導水地区(黒川・大芦川・荒井川)等の地域の方々の理解と協力が得られるように努め、早期の用地取得に向けて、事業の進捗を図ることを目標としています。

平成16年度の予算は、61億9千万円の内示を受けました。この内の約75%にあたる約46億5千万円が補償費です。さらに、約30億円の民間資金を借り入れ、南摩ダムの水没地権者78世帯及び室瀬地区移転対象者の生活再建を図ることとしています。

また、付替県道については、付替始点部(杓子沢工区)の地権者のご協力のもと用地取得を図ります。次に、測量及び調査等については、特に室瀬地区の測量及び技術・用地調査を実施するとともに、付替県道の用地測量及び技術調査を実施することとしています。導水路関係では、地下水等の継続調査を実施する予定です。

独立行政法人水資源機構は、「安全で良質な水を安定して安くお届けすること」を目標にしています。思川開発建設所も、コスト削減に努め、利水者の皆様の声をより一層業務に反映すべく取り組みますので、今後とも宜しくお願い致します。



加蘇地区の地質調査進捗状況

調査実施に当たり、地元自治会をはじめ地域の皆様のご理解とご協力のもと順調に進んでおり感謝申し上げます。

さて、荒井川沿いの加蘇地区では、飛行機による地形測量の実施（11月末日完了）、地層の境界面を広く範囲に調べるための弾性波探査調査（11月中旬完了）、その調査結果を検証し、地層・地質の状況を調べるため、地質サンプルを採取するボーリング調査（現在実施中）を行ってまいりました。

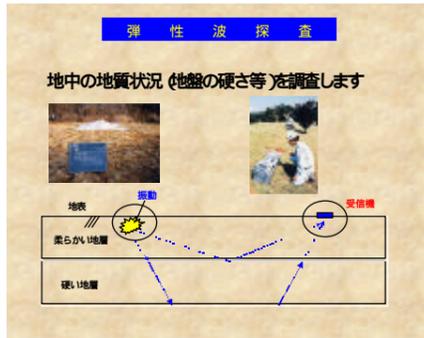
これらの調査を行うことにより、加蘇地区の地形や地質とが把握でき、思川開発事業では、加蘇地区の地下を導水路が通過する計画としており、皆様方が日頃お使いになられている地下水等に影響を与えないような構造とする必要があります。

この調査は、地表付近で人工的に小さな振動を発生させ（弾性波）、その振動が地中を伝わる伝播速度（伝わる速度）から地盤の硬さや軟らかさ等を把握するものです。

以下は作業イメージと実際に行った作業状況です。

弾性波探査調査とは？

そのために、今後調査データをもとに検討を行い、深さや構造、ルートを検討を行ってまいります。

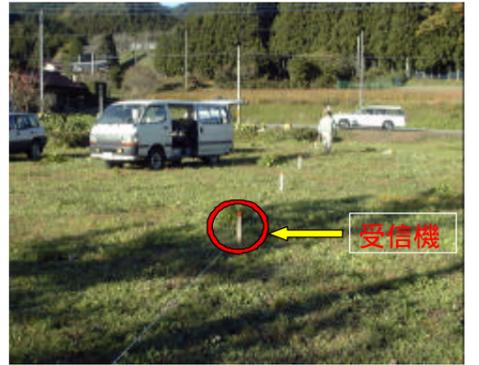


作業イメージ↑

思川開発建設所では、水資源開発機構へ昨年の10月に移行したことも含め、思川開発事業をより広く一般の皆様にご案内いただき、昨年11月鹿沼市の方々と交流を図ることを目的として、昨年11月開催された「かぬま産業フェア」へ、説明パネル等その出展をいたしましたので、その様子を紹介します。

かぬま産業フェア出展

作業状況



こんにちは！ 南摩の仲間たち



その
マンサク科
マンサク（満作）
Hamamelis japonica

花期：3～4月
分布：本州太平洋側
四国、九州
撮影：南摩

マンサクは落葉の低木で、関東地方以西の本州・四国・九州に分布します。葉が出る前に4枚の黄色いりボン状の花を咲かせ、春の訪れをいち早く知らせてくれます。冬木立ちの中では、やばやと花を咲かせるため、その美しさが際立ちます。葉の形は菱形から広卵形の左右不対称で、変わった形をしています。鹿沼の平地林では、節分の頃から見られます。南摩では沢筋近くの雑木林で見ることができます。今年暖冬です。例年より1週間から10日程度早く開花するのでは。

マンサクの語源は、花が枝にびっしり覆って咲くことから、「豊年満作」の「満作」の意味であるという説と、春が近づくと枯れ木の中に黄色い花をいち早くつけること、または春の訪れをいち早く教えてくれることから、「まず咲く」がなまってマンサクに変化したという説があります。

また、マンサクは稲作の吉凶を占う植物ともいわれ、花がたくさん咲いた年は豊作だそうです。私たち職員も、マンサクの花がたくさん咲くことを願っております。

「かぬま産業交流フェア」は、鹿沼市の産業紹介や特産品の展示・即売を行い、市内産業の理解と関心を深め、鹿沼市及び産業界の一層のイメージアップを目的として実施されています。会場には農協関係者や鹿沼市内の企業など幅広い分野から参加があり、各々の特色を活かしたイベントや物販が実施されており、多くの市民が訪れました。

当建設所では事業に関するクイズを実施しました。クイズは展示してあるパネルの中に答えが書いてあるため、一生懸命パネルを読む方々の人垣が出来るといって盛況となり、2日間約3000人の方々に参加していただきました。特に親子連れの姿が目立ち、お父さんやお母さんと一緒にクイズに参加する子供達の姿で終日にぎわっていました。

また、クイズに参加していただいた方にはアンケートにも協力していただき、「環境への影響を軽減すること」、「コスト削減を実施すること」

びっくり！ 水の資源のまめ知識

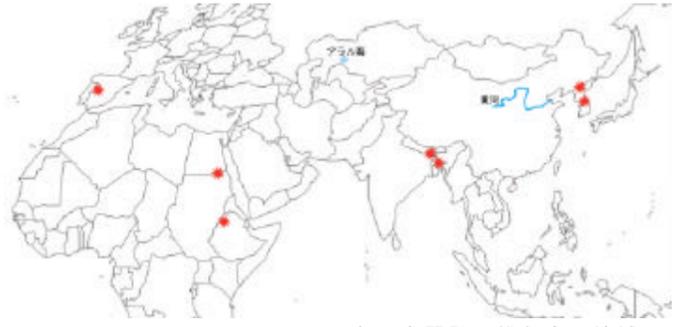
その「世界の水紛争」

21世紀は、人類が水問題に正面から向き合う「水の世紀」とも言われています。地球温暖化の影響が広がる中で、世界で4番目に大きな湖であるアラル海は湖水面積の約6割が減少し、黄河やコロラド川などではしばしば断流現象（川の水が途切れる現象）が発生するなど、世界の主要湖沼・河川での枯渇現象が進んでいます。

さらに、世界各地では人口が急増し、水不足が深刻化しています。ある国が自国の水を確保するために、国境を越えて流れている国際河川を一方的に分水したり汚染したりすることで、水をめぐり地域紛争が各地で発生しています。

水をめぐり紛争には、各国の経済・社会・政治などが複雑に関係しており、問題解決のためには国際機関、各国政府、NGOなどの幅広い国際協力が求められています。

世界の水紛争MAP



現在、水問題で紛争中の地域

参考文献 「第3回世界水フォーラム事務局資料」、「村上雅博氏資料より作成」



展示状況



展示品

「かぬま産業交流フェア」は、鹿沼市の産業紹介や特産品の展示・即売を行い、市内産業の理解と関心を深め、鹿沼市及び産業界の一層のイメージアップを目的として実施されています。会場には農協関係者や鹿沼市内の企業など幅広い分野から参加があり、各々の特色を活かしたイベントや物販が実施されており、多くの市民が訪れました。

当建設所では事業に関するクイズを実施しました。クイズは展示してあるパネルの中に答えが書いてあるため、一生懸命パネルを読む方々の人垣が出来るといって盛況となり、2日間約3000人の方々に参加していただきました。特に親子連れの姿が目立ち、お父さんやお母さんと一緒にクイズに参加する子供達の姿で終日にぎわっていました。

また、クイズに参加していただいた方にはアンケートにも協力していただき、「環境への影響を軽減すること」、「コスト削減を実施すること」



職員一同

「かぬま産業交流フェア」は、鹿沼市の産業紹介や特産品の展示・即売を行い、市内産業の理解と関心を深め、鹿沼市及び産業界の一層のイメージアップを目的として実施されています。会場には農協関係者や鹿沼市内の企業など幅広い分野から参加があり、各々の特色を活かしたイベントや物販が実施されており、多くの市民が訪れました。

当建設所では事業に関するクイズを実施しました。クイズは展示してあるパネルの中に答えが書いてあるため、一生懸命パネルを読む方々の人垣が出来るといって盛況となり、2日間約3000人の方々に参加していただきました。特に親子連れの姿が目立ち、お父さんやお母さんと一緒にクイズに参加する子供達の姿で終日にぎわっていました。

また、クイズに参加していただいた方にはアンケートにも協力していただき、「環境への影響を軽減すること」、「コスト削減を実施すること」

編集記

10月1日、水資源開発独立行政法人水資源機構に生まれ変わりました。